

北松浦郡小値賀町斑島の巡検記録

迎 康 満 (佐世保南高等学校)

I はじめに

この文は通信制課程の生徒を指導するために各地に巡回指導といって本校から出張指導に行きますが、その時、現地の生徒と一緒に歩いたことをまとめたものです。

なお調査するにあたって、「長崎県の地学」の字久・小値賀(松井和典先生)と阪口和則先生(佐世保南高)の未発表調査資料を参考にしました。

小値賀島は上五島(中通島北部)のけわしい山にくらべて、平べったく、なだらかな地形を示し、数多くの岩滓丘を見ることができ、火山活動が盛んであったことを示します。

この島にはこれといった産業もなく漁業中心の島です。以前は多くの子牛が本土に送られていたと聞いていましたが、今は少なくなっているようでした。

斑島は小値賀島の西に位置し、周囲4kmぐらいで、一番高い所が126.8mあり、海岸線は溶岩流でけわしい崖を作っています。

両島間は100mぐらいの斑瀬戸で区切られています。

両島間の交通は笛吹(小値賀島中心地で定期船寄港地)から歩いて約40分(バス、タクシー利用可能)ぐらいのところ、斑島との対岸に出ます。斑瀬戸の交通は全く不定期で、対岸に立っておれば、小さな発動機船が迎えに来てくれます。

II 巡検コースにしたがっての記録

A 渡し場附近 斑島入口の海底

渡し場附近の海は浅く、小値賀島と斑島は玄武岩の島であるにもかかわらず白色の砂がたい積しているのは不思議でした。残念ながら、この砂は採集できませんでしたが、どこから運ばれたものか興味を引きました。

斑島入口になると急に深くなっているの、

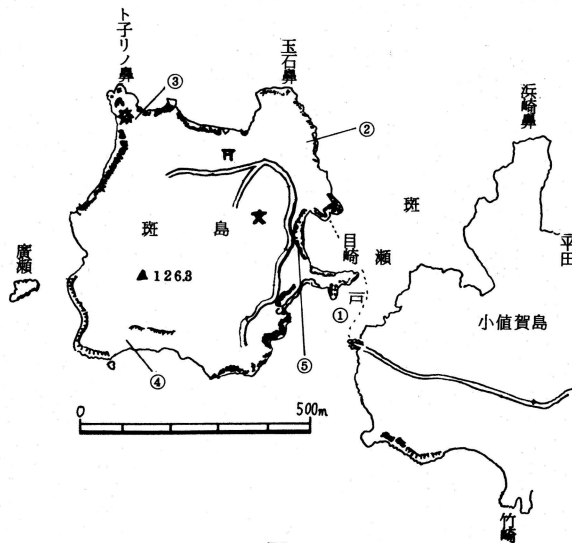


図 1

渡しの船頭さんに聞いたところ、小値賀にはこのようなところが各所にあるとの話でしたので、地図で示してもらったところ、どうやら岩滓丘のある附近のようでした。

B 斑晶の大きい玄武岩とポットホール

斑島について部落を北側の方にぬけると、風化面が白っぽくざらざらして、溶岩流の方向をいくらかのこし、斑晶の大きい（白色～透明、最大で2cm×1cm程度）玄武岩があります。

この斑晶については、地質調査所の松井和典先生より「斑島の岩石にみえる白色～透明鉱物は、斜長石（曹灰長石）の斑晶で、ごく希に石英粒が外来結晶として含まれることがあります」（1971. 12. 15原文のまま）との御指導を受けました。

この地域には多くのポットホールを見ることができます。天然記念物に指定されているものは、穴の直径は1m以上、深さ3mぐらいで、中の玉は直径40cmもありそうです。潮流の関係かどうかはわかりませんが、この島では、この附近にポットホールが集中しているようです。

C 玄武岩の区別

この附近は本島で一番広々としたところで、枯草の色と海の青、灯台の白さが大変印象的な場所です。この灯台の手前に前述Bの玄武岩（上位）と下位玄武岩との境を見ることができます。下位玄武岩は風化面が上位のものにくらべやや黒っぽくなり、斑晶の大きさも小さくなり緻密になります。

D 砂岩の礫を含む岩滓丘

④の部分は泥と凝灰岩が主で、層状を示し、小豆大の玄武岩の亜円礫が豆をまきちらしたよ

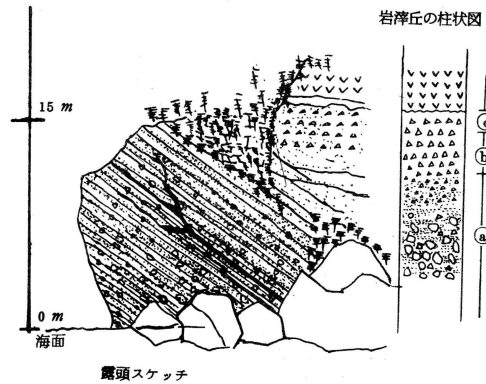


図 2

うにひろがっているが、そのひろがり是不規則です。

その中に、やや熱変成を受けた亜円礫から円礫の砂岩、泥岩（直径15cm以下と思われる）と黒色で緻密な玄武岩の角礫を含んでいる部分も見られます。

①～③部分は、④の部分よりも凝灰岩の量が増し、その中にそら豆大ぐらいの玄武岩の角礫がおおよそ均一にひろがっています。溶岩流との接触面より1mぐらいのところから、凝灰岩の固化が進んでおり、接触面では、ガスが出て多孔質になっている部分（20cm程度）を見ることができます。

小値賀島では、この泥の部分を取り、風呂の釜や家の壁土に利用していると聞きました。

この島で、砂岩、泥岩の礫が産出することについては、火山活動が開始されたときに地下から持ちあげられたものと考えられ、これらの礫種について今後くわしく検討すれば、斑島の基盤岩がどんなものであったか推定されると思われます。

松井和典先生は、このたい積岩はいわゆる五島層群のものであると結論されています。

E 岩滓丘

この岩滓丘は前述Dとちがい玄武岩のみからなり、礫の大きさも不規則であり、分布状態も

規則性は全くみられません。

F その他

高い所に上がれば、宇久島、野崎島、上五島（中通島北部）および小値賀島を一望にすることができ、火成岩の構成のちがいによる地形の変化を見ることができます。また、斑島では数

多くの火山弾（持出禁止）を見ることが出来ます。火山弾の形を統計的な方法で調べてみるのもおもしろいと思いました。

なお今夏にくわしく小値賀島の地質を調べ、岩石や地質構造などについて報告してみたいと思っております。

長崎県地学会記事

○昭和46年度 第2回運営委員会

昭和46年6月20日(土)

12～13時 県立長崎西高校

出席者 一瀬 亘, 石井哲夫, 鎌田泰彦,
荒木真寿男, 阪口和則, 西村 進,
栄岩吉郎, 西村暉希, 丸山稜人,
小柳孝夫, 橋口文雄, 堀口承明,
田島俊彦, 松本徳夫, 小田忠昭,
石川直衛

議事 1) 長崎地学会創立10周年記念大会の件
2) 「長崎県の地学」ガイドブック作成の件

○昭和46年度 第4回運営委員会

昭和46年11月13日(土)

17～22時 県立長崎西高校

出席者 鎌田泰彦, 松本徳夫, 丸山稜人,
田島俊彦, 小田忠昭, 西村暉希,
石川直衛

議事 1) 長崎県地学会創立10周年記念大会
総括の件
2) 「長崎県の地学」販売方法の件
3) 高校地学存続(昭和48年度以降)の
要望書作成の件(各高等学校宛)
4) 「長崎県の地学」内容見本チラシ作
成の件

○昭和46年度 第3回運営委員会

昭和46年10月27日(水)

17～21時 県立長崎西高校

出席者 石井哲夫, 鎌田泰彦, 荒木真寿男,
小田忠昭, 堀口承明, 田島俊彦,
石川直衛

議事 1) 長崎県地学会創立10周年記念大会
の件
2) 「長崎県の地学」販売の件

○昭和47年3月 長崎県地学会事務局を、 長崎大学教育学部地学教室に移転

○長崎県地学会創立10周年記念大会

昭和46年11月7日(月) 10～16時

長崎県立諫早高校 図書館

参加者55名

(石川 直衛記)